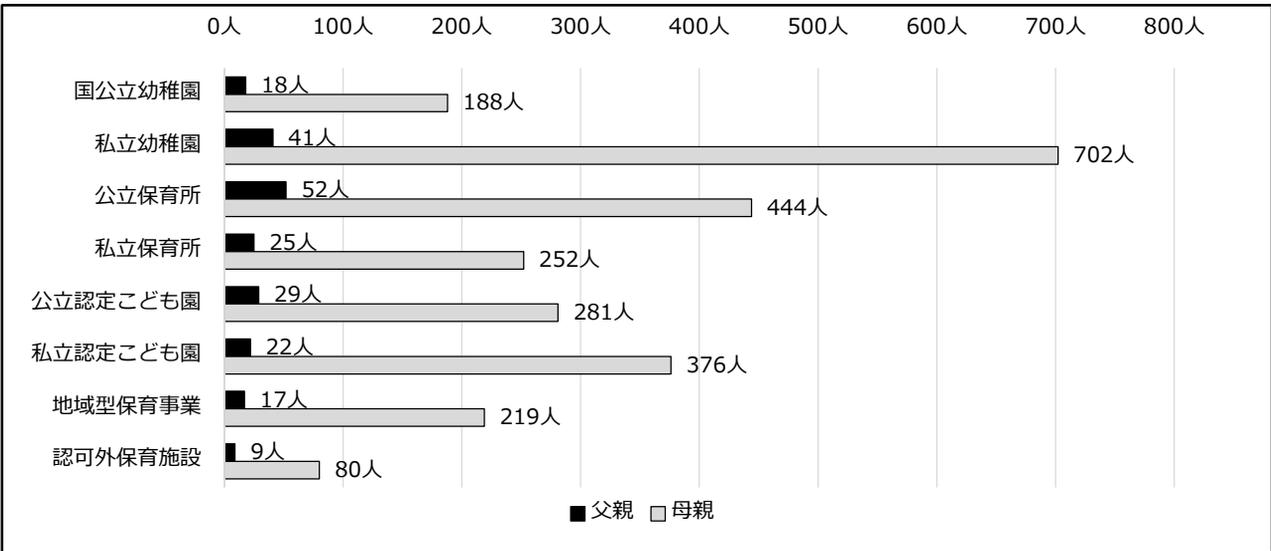


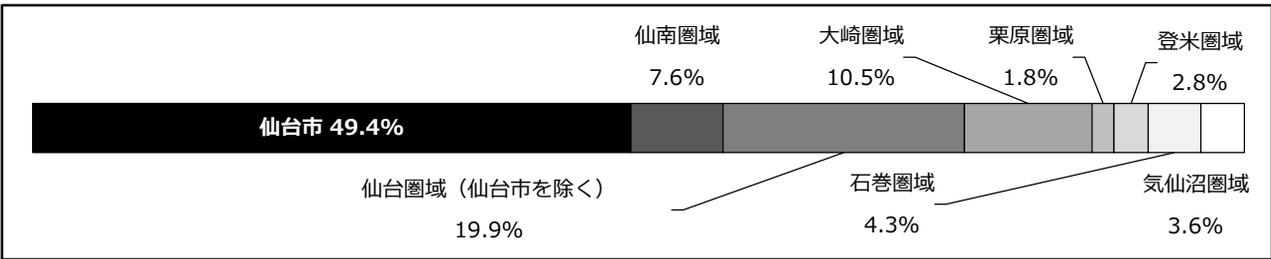
幼児教育に関わるアンケート結果（対象者：保護者）

回答数

対象施設			回答数（人）			
施設区分	施設数	保護者(父親)	保護者(母親)	保護者(その他)	合計	
幼稚園	国公立	60	18	188	1	207
	私立	127	41	702	1	744
	小計	187	59	890	2	951
保育所	公立	141	52	444	2	498
	私立	224	25	252	0	277
	小計	365	77	696	2	775
認定こども園	公立	9	29	281	0	310
	私立	171	22	376	1	399
	小計	180	51	657	1	709
地域型保育事業	282	17	219	1	237	
認可外保育施設	264	9	80	0	89	
合計	1,278	213	2,542	6	2,761	



居住地

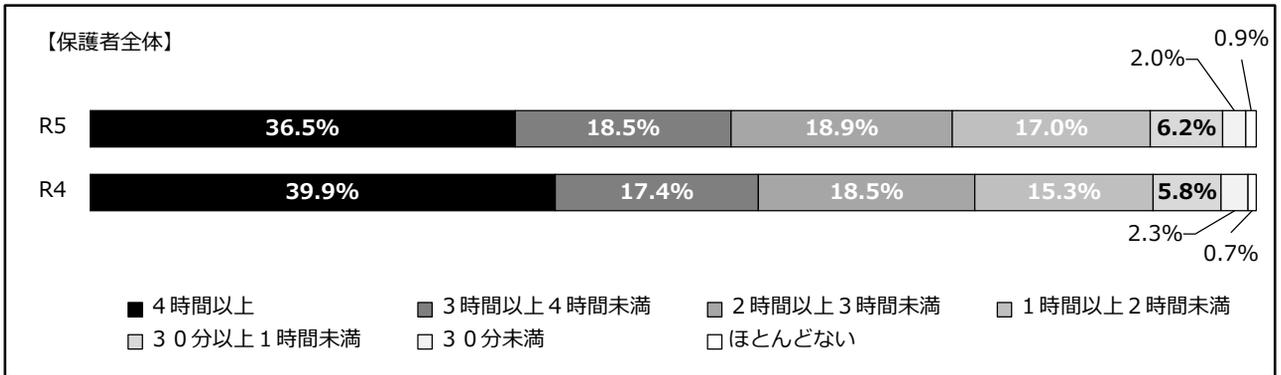


回答方法

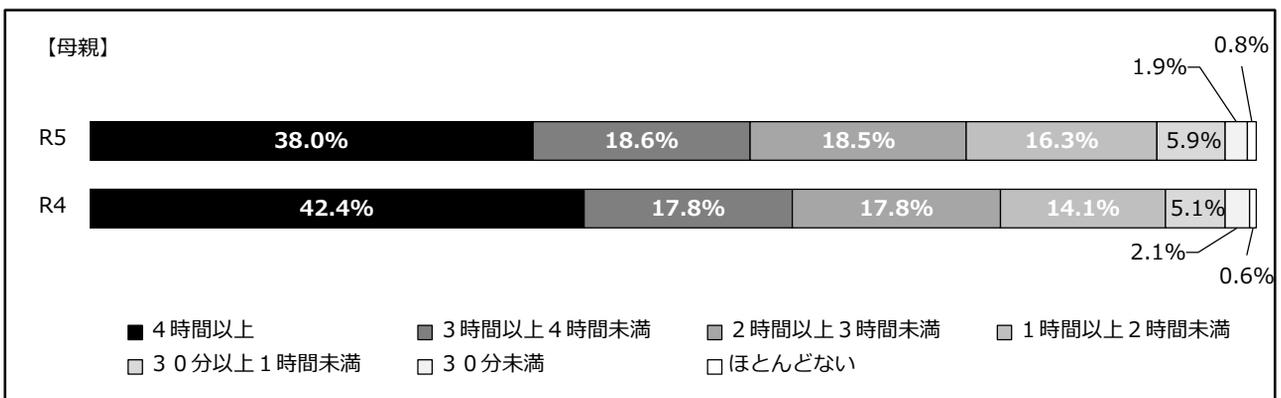
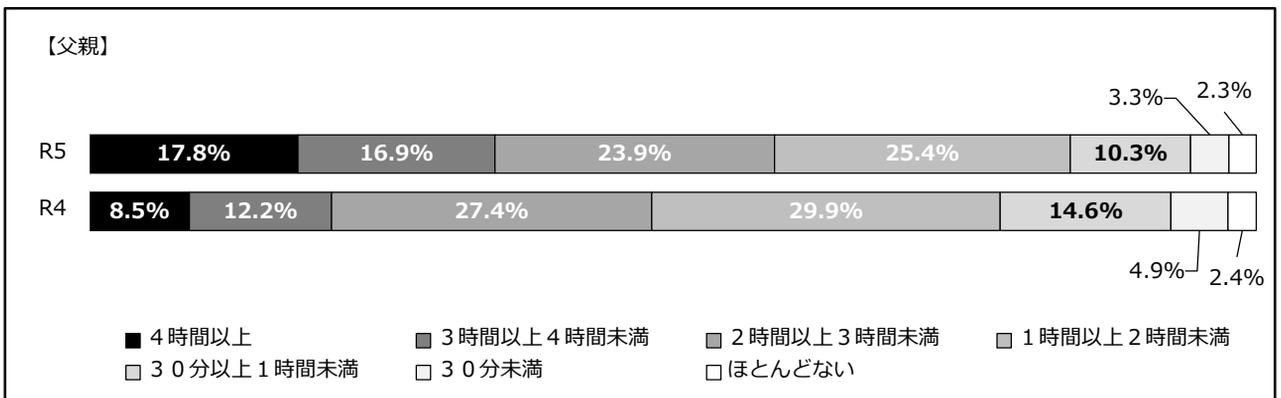


1 親子のかかわりについて

1-1-1 あなたは、平日（休日以外）にお子さんと触れ合う時間はどの位ありますか。（食事と入浴を除いた1日当たりの平均時間）



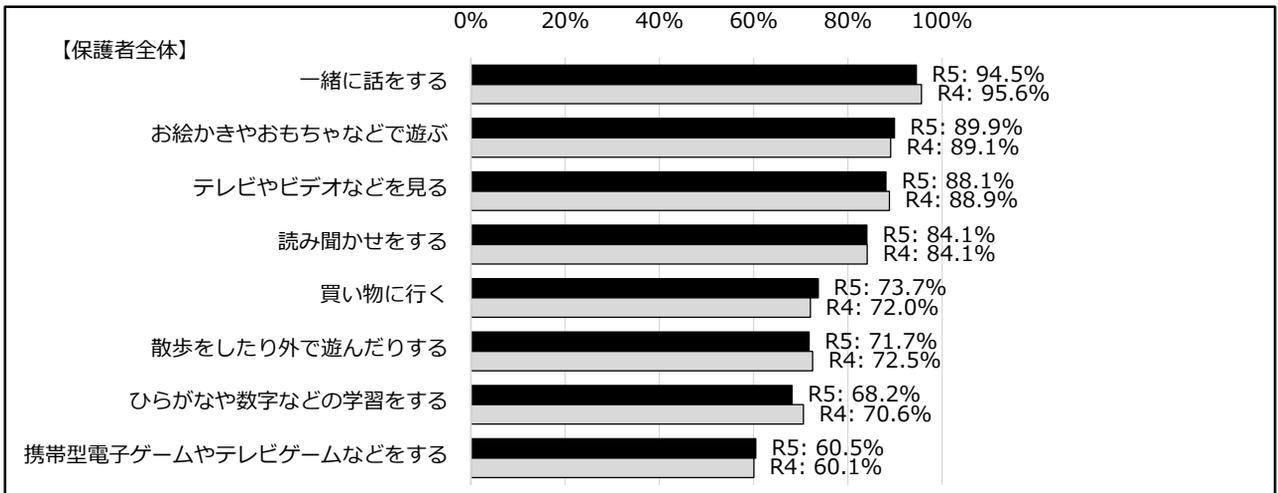
（父親・母親別内訳）



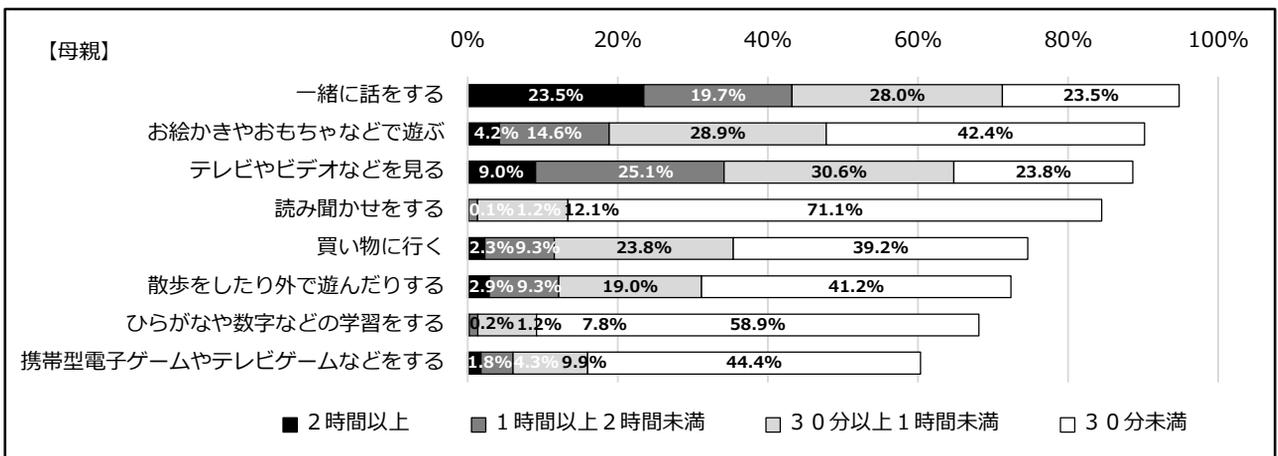
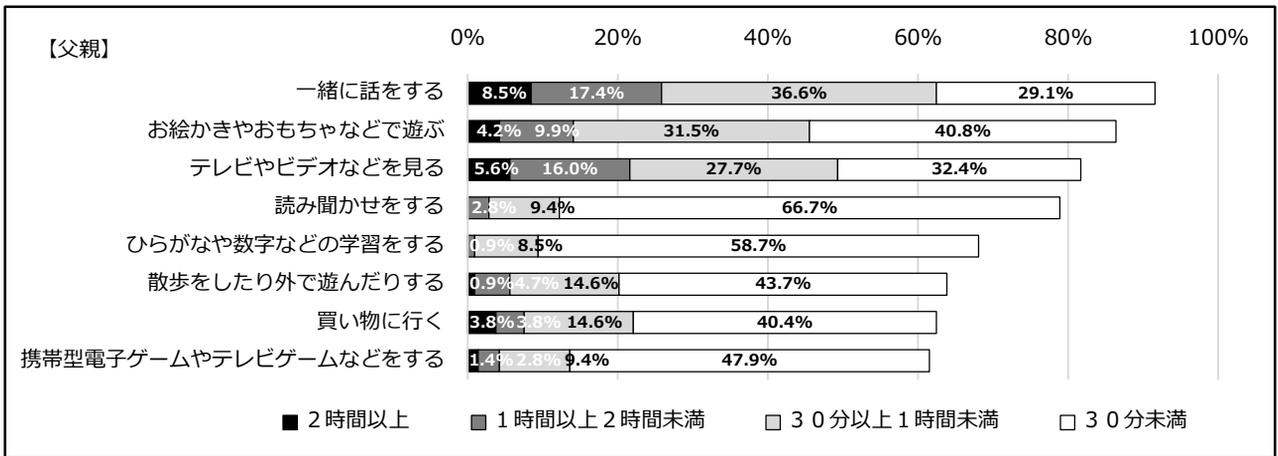
【概要・考察等】

- 平日、子供と触れ合う時間が1時間以上と回答した保護者全体の割合は、0.2ポイント減で昨年度ほぼ同じであり、父親・母親別では、母親は0.7ポイント減で昨年度とほぼ同じだが、父親が昨年度より6ポイント増加した。

1-1-2 「1-1-1」で選択した「触れ合う時間」において、お子さんと一緒に何をすることが多いですか。（該当するもの全てを選択し、それぞれの時間も選択）



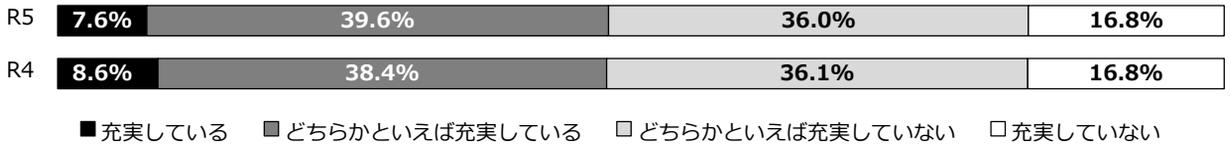
（父親・母親別内訳）



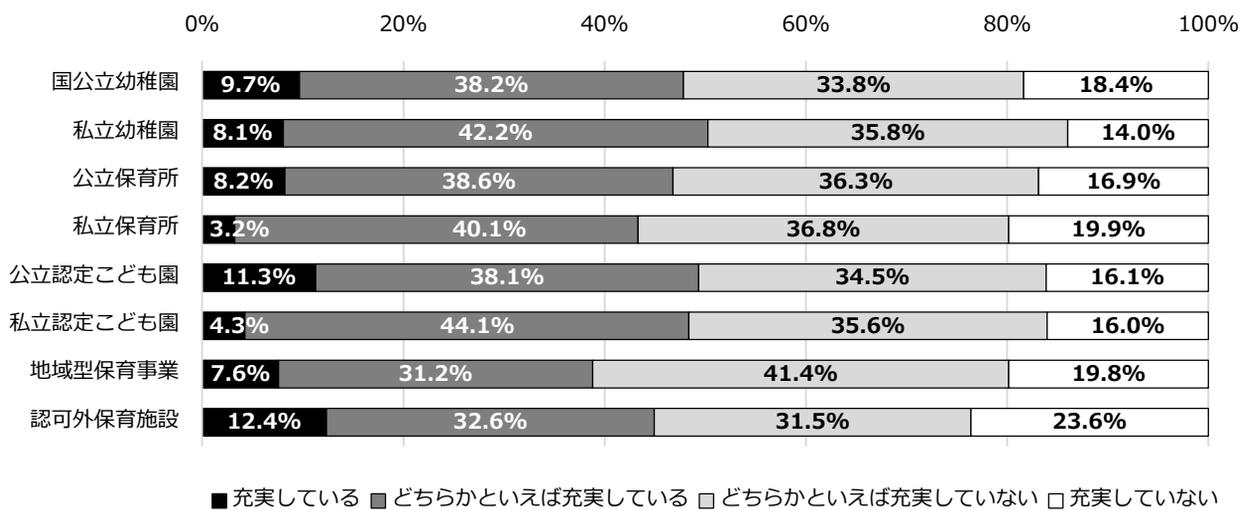
【概要・考察等】

- 子供と触れ合う内容について、「一緒に話をする」と回答した割合が昨年度同様、最も高く、その他の内容についても、昨年度とほぼ同じ割合であった。
- 「読み聞かせをする」と回答した割合は、昨年度と変わらず、84.1%と高い割合である。
- 「携帯型電子ゲームやテレビゲームなどをする」と回答した割合は60.5%であるが、30分未満と回答している割合が多くを占めていることや父親、母親共に「一緒に話をする」など、平日でも可能な方法で「触れ合う時間」をつくっていることから、家庭での親子での愛着形成は図られてきていることがうかがえる。

1-2 親として成長していくための学ぶ機会（妊娠・出産や子育てなどに関する教室や講座など）は充実していますか。



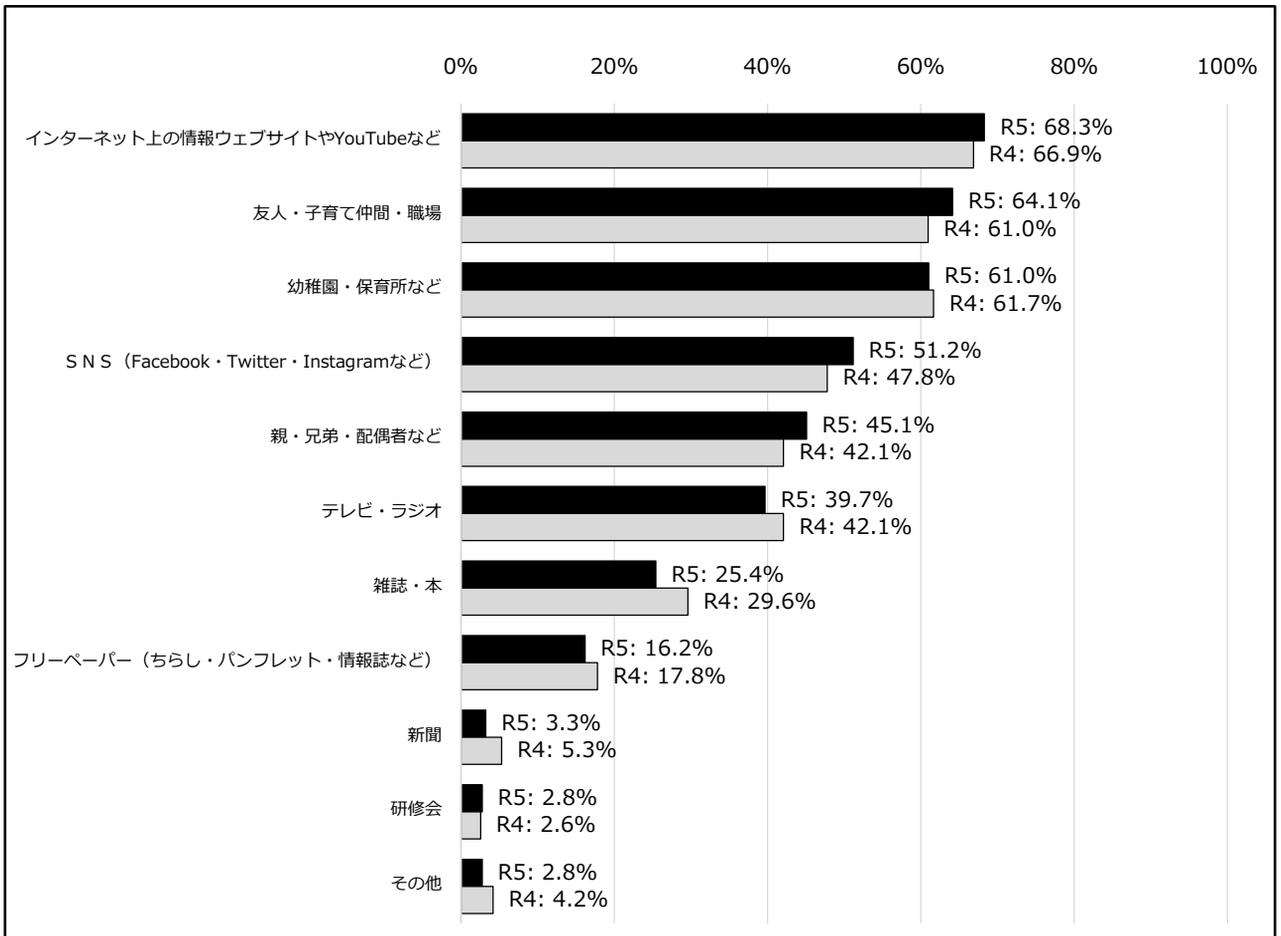
(施設類型別内訳)



【概要・考察等】

- 学ぶ機会が「充実している」「どちらかといえば充実している」と回答した割合は、昨年度より0.2ポイント増でほぼ同じ割合であった。
- 「充実している」「どちらかといえば充実している」と回答した割合は、およそ半数であることから、学ぶ機会に対する保護者のニーズを把握するとともに、学ぶ機会の情報提供の方法を工夫していく必要がある。

1-3 子育てに関する情報（知識）は、主にどのようなところから得ていますか。（該当するもの全て選択）



【その他の主な内容】

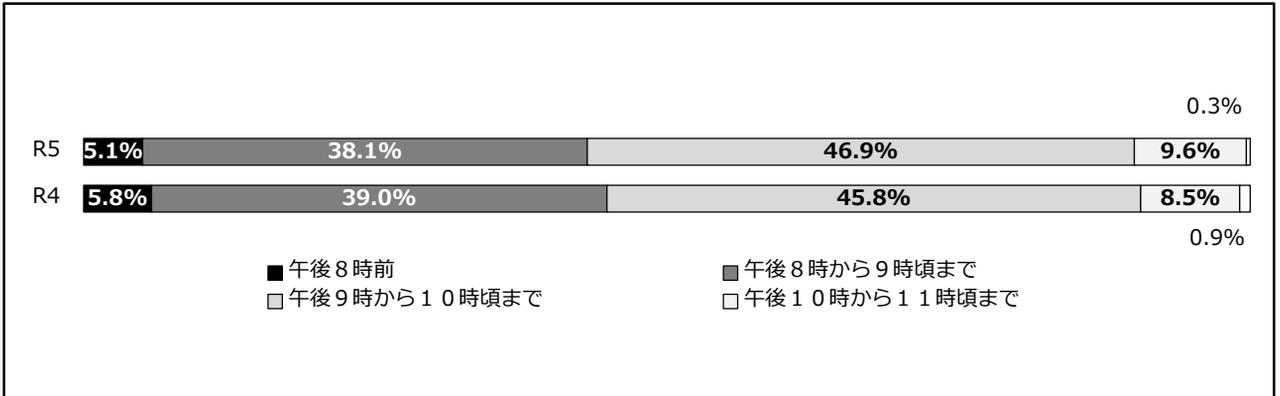
地域の子育て支援センター、病院、助産院、習い事教室

【概要・考察等】

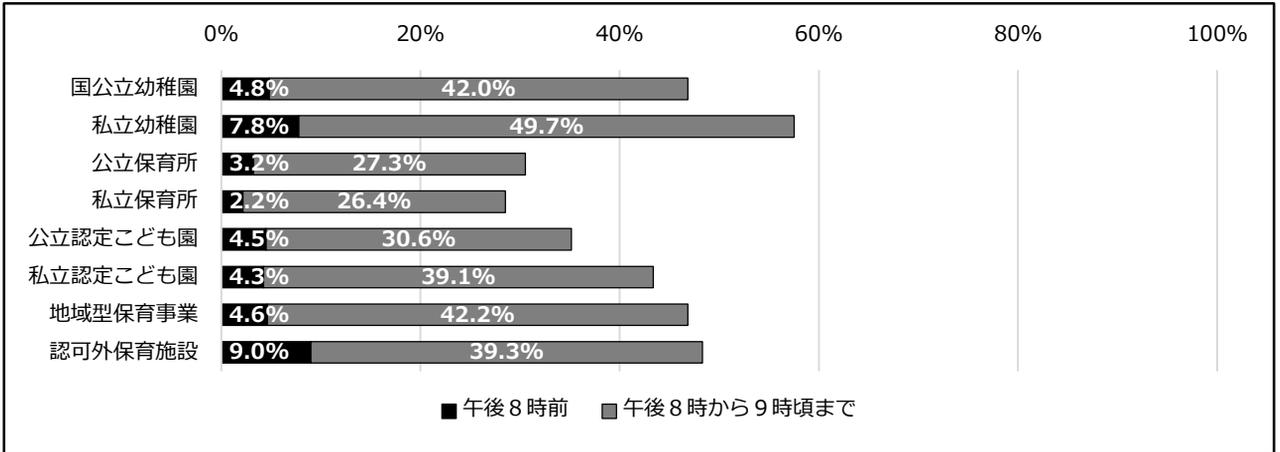
- 「インターネット上の情報ウェブサイトやYouTubeなど」と回答した割合が最も高く、「友人・子育て仲間・職場」「幼稚園・保育所など」がそれに続いている。
- 「雑誌・本」「フリーペーパー」の割合が減少していく一方で、「インターネット上の情報ウェブサイトやYouTubeなど」「SNS（Facebook・Twitter・Instagramなど）」と回答した割合が、年々増加傾向にあることから、スマートフォンやパソコン等の電子機器を活用する情報提供の方法は、効果的・効率的であると考えられる。

2 お子さんの基本的な生活習慣について

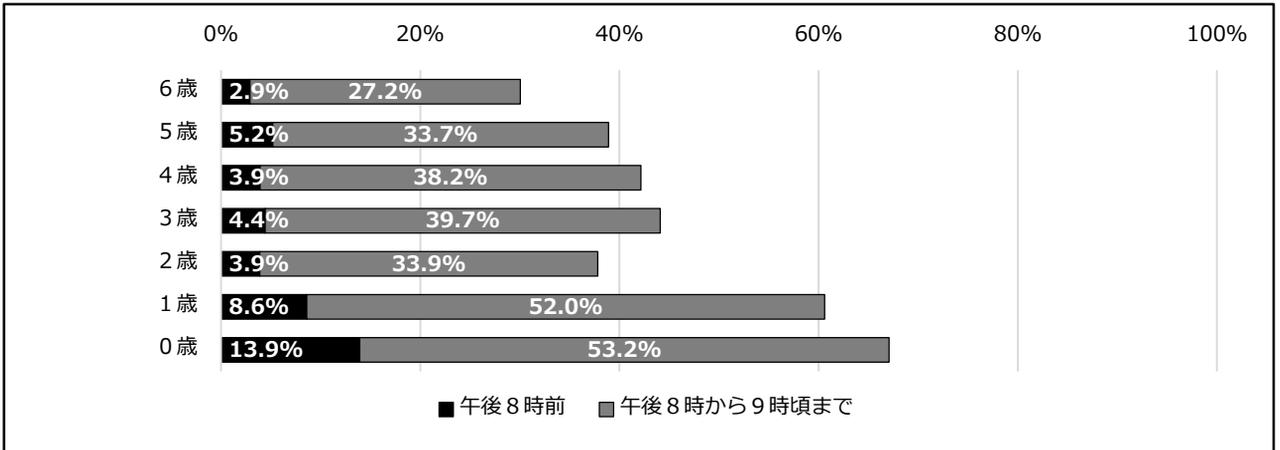
2-1-1 お子さんはいつも何時頃に寝ていますか。



(施設類型別内訳)



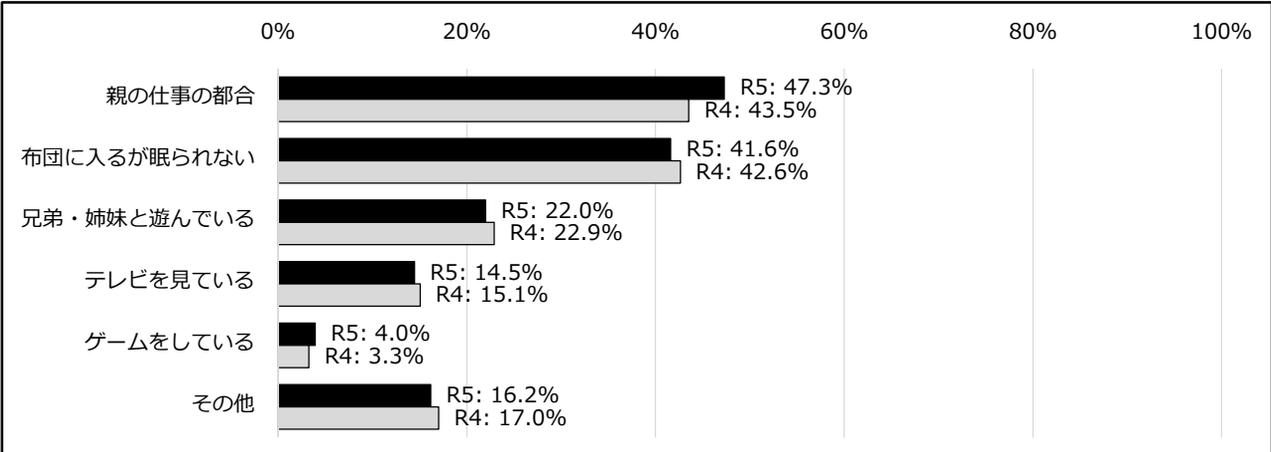
(年齢別内訳)



【概要・考察等】

- 「子供が『午後9時頃まで』に就寝する」と回答した割合は、昨年度より1.6ポイント減で、ほぼ同じ割合であった。
- 施設類型別内訳で、幼稚園等に比べて保育所の方が「午後9時頃まで」と回答する割合がかなり低いことから、親の仕事の関係による生活時間が、就寝に大きく影響していると考えられる。

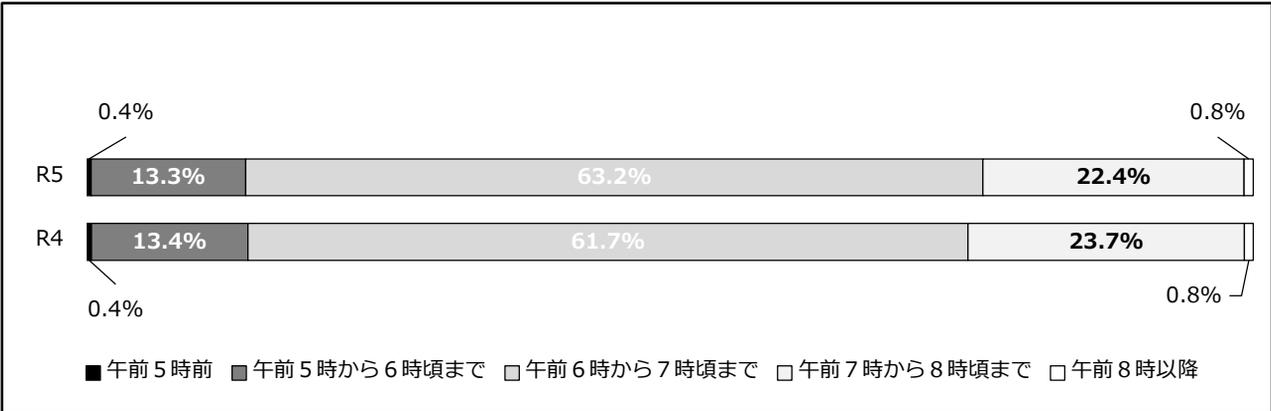
2-1-2 「2-1-1」で「午後9時から10時頃まで」、「午後10時から11時頃まで」又は「午後11時以降」を選択した方は、お子さんが午後9時以降に寝る理由をお答えください。（該当するもの全て選択）



【その他の主な内容】
 昼寝の時間が長かった、夕寝をした、父親の帰りを待っていた、習い事があった

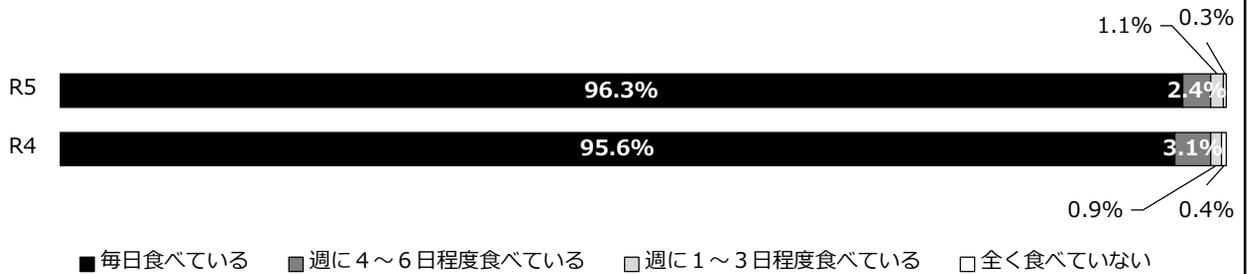
【概要・考察等】
 ○ 「親の仕事の都合」を理由として回答した割合は、昨年度より3.8ポイント増加し、最も高い割合である。引き続き、家庭生活と親の仕事の調和について、社会全体で考え、取り組む必要がある。
 ○ 「その他」では、「習い事」「読み書きの勉強」「YouTube」などの記述も見られることから、睡眠は子供の健やかな発育・発達に大切であるということについて、引き続き啓発していく必要がある。

2-2 お子さんはいつも何時頃に起きますか。



【概要・考察等】
 ○ 「子供が『午前7時頃』まで起床する」と回答した割合は、1.4ポイント増で、ほぼ同じ割合であった。

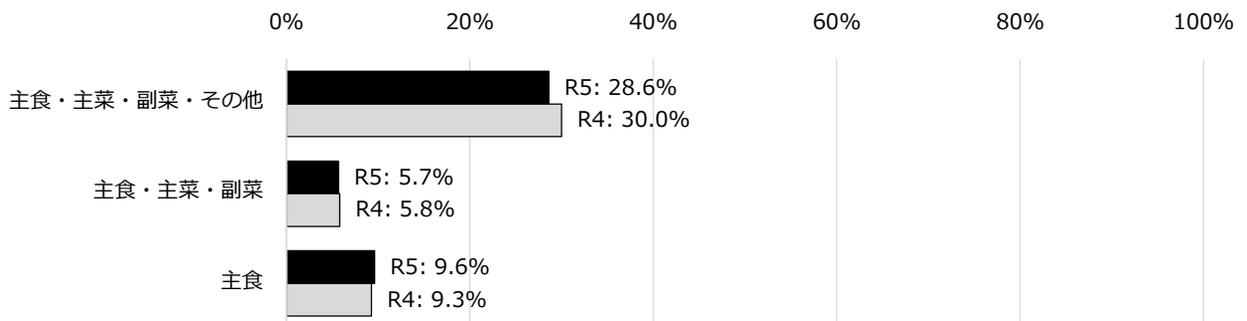
2-3-1 お子さんは毎日、朝ごはんを食べていますか。



【概要・考察等】

- 朝食を「毎日食べている」「週に4～6日程度食べている」と回答した割合は98.7%であり、昨年度と同様、高い割合を示していることから、朝食の必要性についての理解が定着していることがうかがえる。

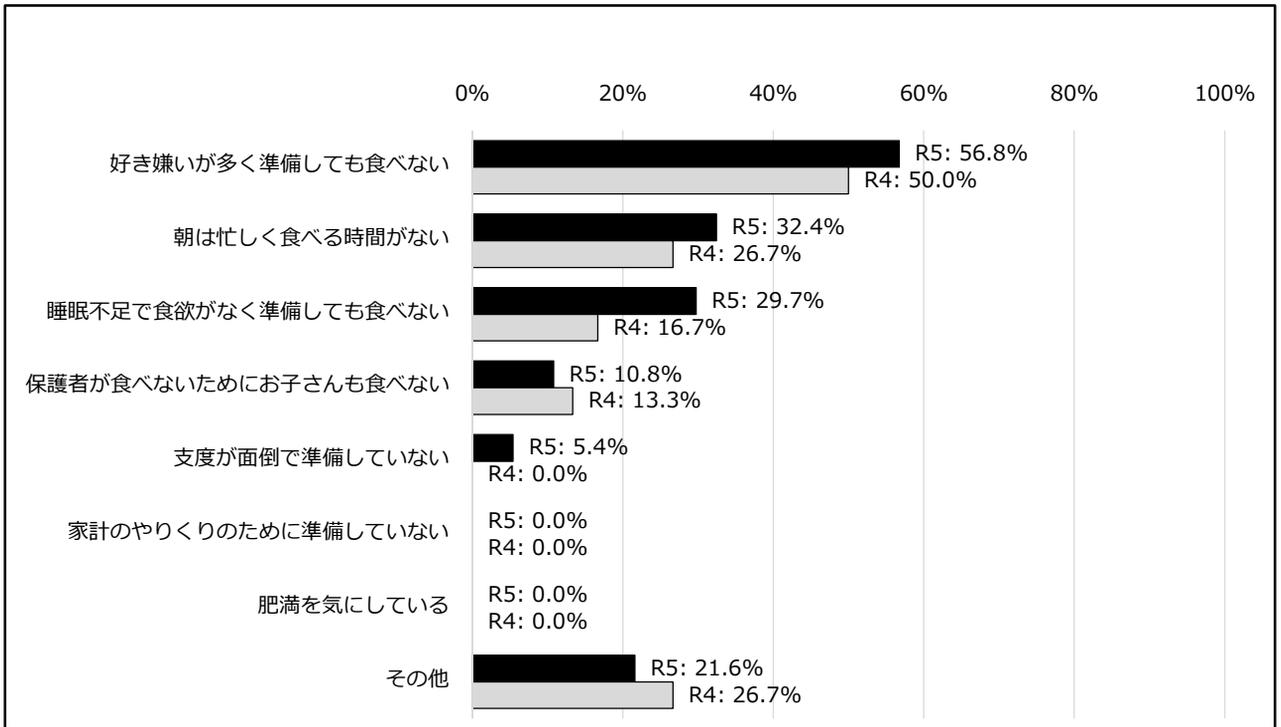
2-3-2 「2-3-1」で「毎日食べている」又は「週に4～6日程度食べている」を選択した方は、お子さんが普段朝ごはんに食べているものを全てお答えください。（該当するもの全て選択）



【概要・考察等】

- 朝食に「主食・主菜・副菜・その他」「主食・主菜・副菜」を食べていると回答した割合は、昨年度より1.5ポイント減で、ほぼ同じ割合であった。
- 「主食」のみと回答した割合が昨年度に引き続き10%程度であることから、朝食の必要性とともに、栄養バランスのよい朝食を摂ることの重要性を合わせて啓発する必要がある。

2-3-3 「2-3-1」で「週に1~3日程度食べている」又は「全く食べていない」を選択した方は、お子さんが朝ごはんを食べない理由をお答えください。（該当するもの全て選択）



【その他の主な内容】

食事に興味がないため、少食のため

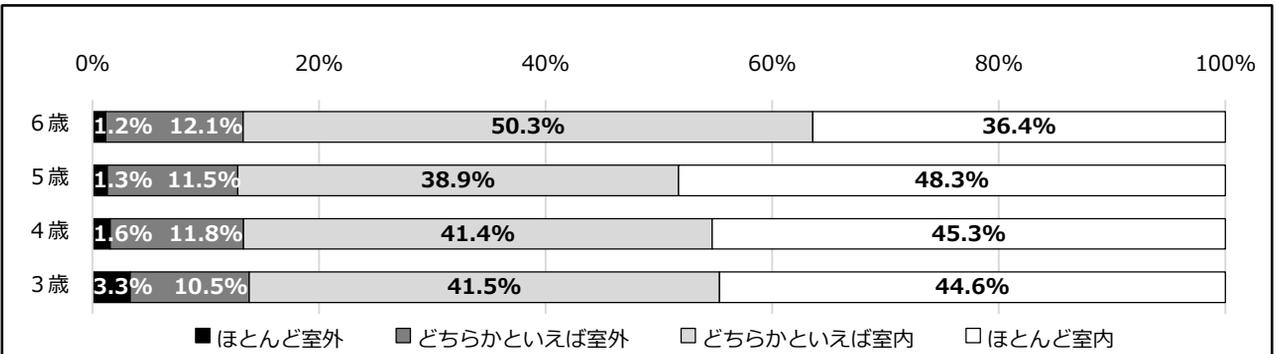
【概要・考察等】

- 「好き嫌が多く準備しても食べない」を理由として回答した割合が最も高く、昨年度より6.8ポイント増加した。
- 「睡眠不足で食欲がなく準備しても食べない」を理由として回答した割合は、昨年度より13ポイント増加していることから、睡眠についても関連させながら、朝食の大切さを啓発していく必要がある。
- 「朝は忙しくて食べる時間がない」を理由として回答した割合は、5.7ポイント増加し、32.4%と2番目に高い。

2-4-1 お子さんは平日に家庭で遊ぶとき、室内、室外のどちらが多いですか。
※ お子さんが3歳児以上の方のみ回答



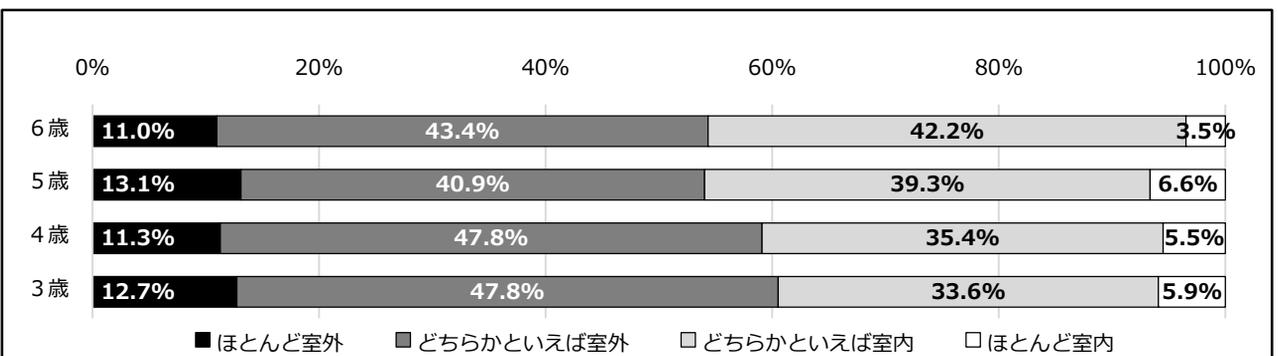
(年齢別内訳)



2-4-2 お子さんは休日に家庭で遊ぶとき、室内、室外のどちらが多いですか。
※ お子さんが3歳児以上の方のみ回答



(年齢別内訳)



【概要・考察等】

- 家庭で遊ぶとき「ほとんど室外」と「どちらかといえば室外」と回答した割合は、平日は13.3%だが、休日は57.3%であった。平日は外で遊ぶ時間を取ることは難しいが、休日、時間に余裕があれば、半数以上の家庭で外で遊んでいることがうかがえた。
- 「ほとんど室外」「どちらかといえば室外」と回答した割合について、年齢別では、平日、休日ともに大きな差は見られなかった。
- 平日に比べて外で遊ぶ時間が確保しやすい休日でも、外遊びをしている家庭はおよそ6割にとどまっていることから、熱中症などの心配のある時期を除き、積極的に外遊びをしていくことのよさについて、引き続き啓発していく必要がある。

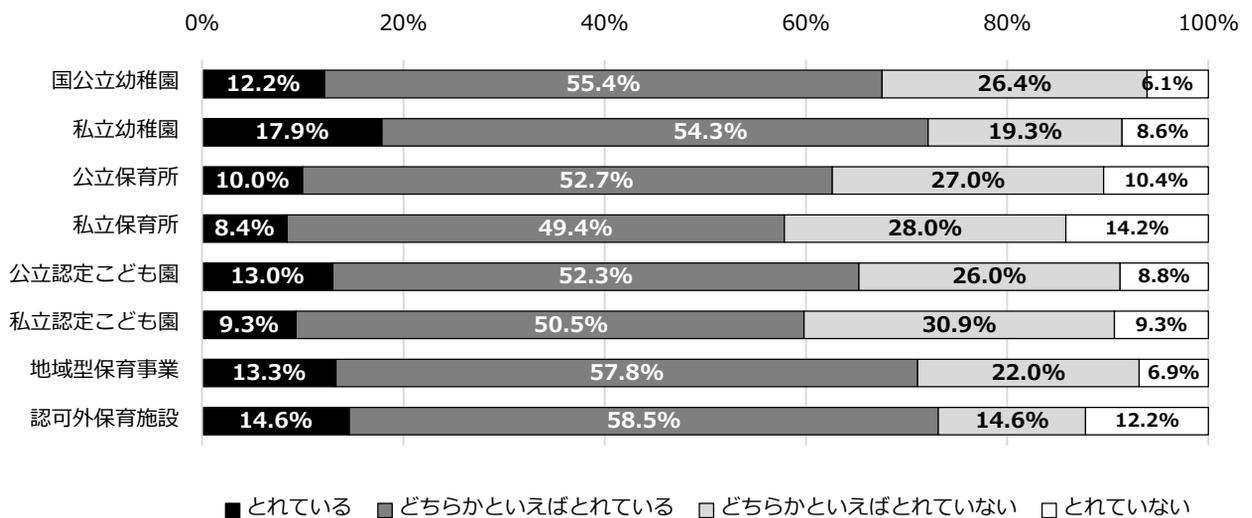
※今年度から、平日と休日に分けて質問。

2-5-1 お子さんの基本的な生活習慣の確立にもつなげる「家庭生活と仕事の調和」はとれていると感じますか。

※ 現在、就業している方のみ回答



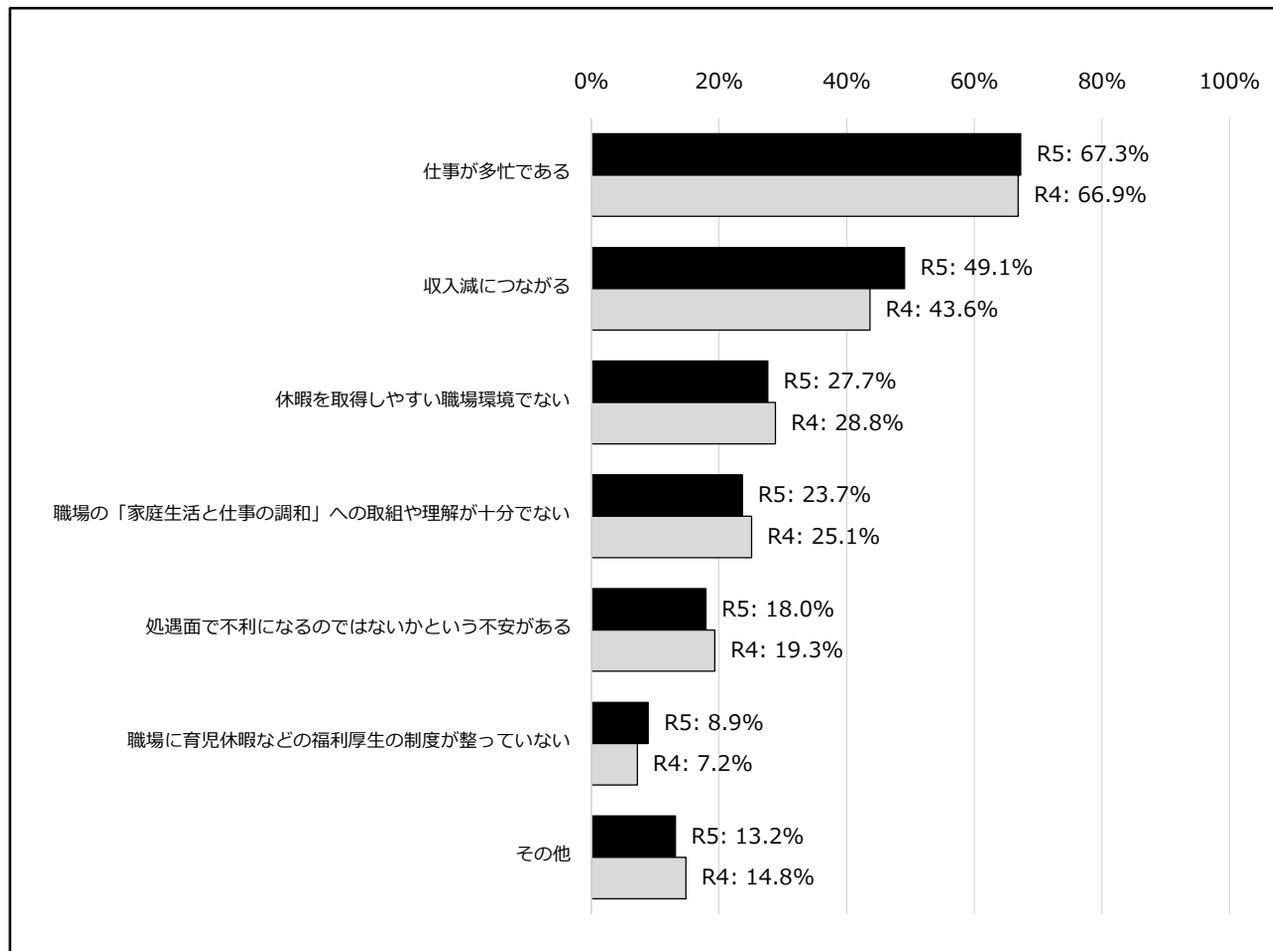
(施設類型別内訳)



【概要・考察等】

- 家庭生活と仕事の調和が「とれている」「どちらかといえばとれている」と回答した割合は、昨年度より5ポイント減少し65.4%だった。
- 家庭生活と仕事の調和は、「親子のかかわり」や「子供の基本的な生活習慣づくり」にも影響することから、企業における一層の「働き方改革」の推進や「学ぶ土台づくり」に関連する施策についての啓発を図る必要がある。

2-5-2 「2-5-1」で「どちらかといえばとれていない」又は「とれていない」を選択した方は、その理由をお答えください。（該当するもの全て選択）
 ※ 現在、就業している方のみ回答



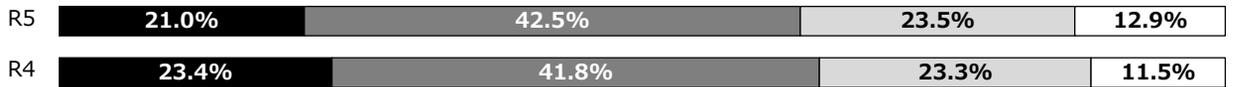
【その他の主な内容】

時短勤務が気軽にできないため、勤務場所が遠方のため、勤務時間が不規則なため

【概要・考察等】

- 「仕事が多忙である」「収入減につながる」「休暇を取得しやすい職場環境でない」など、理由として挙げられているものの割合や傾向は昨年度とほぼ同じである。
- 「収入減につながる」との回答が5.5ポイントの増加となっており、他の理由よりも増加の幅が大きい。これは昨年度も見られた傾向であり、昨年度に引き続き、収入に関する意識が高まるような状況であることが考えられる。

2-6 子供の基本的生活習慣の確立に向けた「ルルブル」の取組に関して、家庭における取組状況についてお答えください。

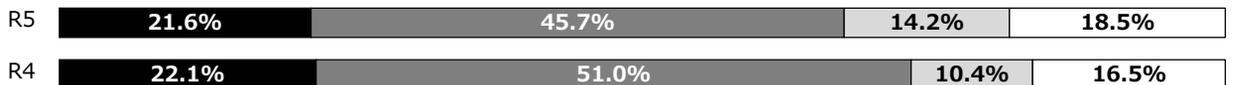


- 「ルルブル」を実践(意識)している
- 「ルルブル」は知らないが、その内容は実践(意識)している
- 「ルルブル」は知っているが、実践(意識)していない
- 「ルルブル」を知らないし、実践(意識)していない

【概要・考察等】

- 「ルルブル」の取組を「実践(意識)している」「知らないが、その内容は実践(意識)している」と回答した割合は、昨年度より1.7ポイント減少し、「実践している」割合は、63.5%であった。
- 「実践(意識)している」「知っているが、実践(意識)していない」と回答した割合は、昨年度より2.2ポイント減少し、「知っている」割合は、44.5%であった。
- 「知っている」と回答した割合が半数に満たないことから、引き続き「ルルブル」の取組の普及啓発を図り、基本的生活習慣の確立の重要性について理解を促進していくとともに、実践につなげる取組を行っていく必要がある。

2-7 幼児教育の充実に向けた「学ぶ土台づくり」の取組に関して、家庭における取組状況についてお答えください。



- 「学ぶ土台づくり」を実践(意識)している
- 「学ぶ土台づくり」は知らないが、その内容は実践(意識)している
- 「学ぶ土台づくり」は知っているが、実践(意識)していない
- 「学ぶ土台づくり」を知らないし、実践(意識)していない

【概要・考察等】

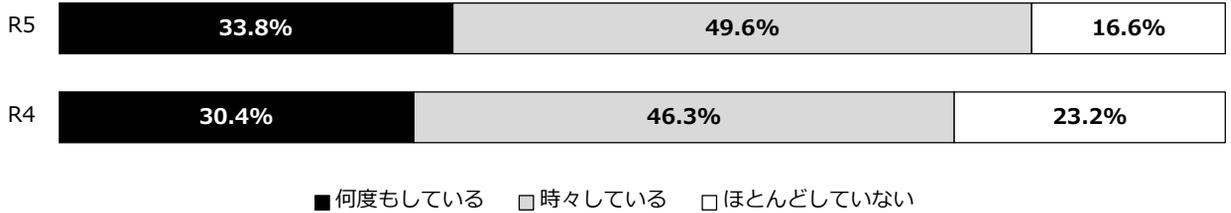
- 「学ぶ土台づくり」の取組を「実践(意識)している」「知らないが、その内容は実践(意識)している」と回答した割合は、年々増加傾向にあり、昨年度より5.8ポイント減少し、「実践している」割合は67.3%であった。
- 「実践(意識)している」「知っているが、実践(意識)していない」と回答した割合は、昨年度より3.3ポイント増加し、「知っている」割合は35.8%であった。
- 「知っている」と回答した割合が4割に満たないことから、あらゆる機会を通じて「学ぶ土台づくり」の取組の普及啓発を図っていくことが必要である。

種別	ルルブル		学ぶ土台づくり	
	教員・保育士	保護者	教員・保育士	保護者
実践(意識)している	49.4%	21.0%	58.6%	21.6%
知らないが その内容は実践(意識)している	14.6%	42.5%	14.4%	45.7%
実践(意識)している割合	64.0%	63.5%	73.0%	67.3%
知っているが 実践(意識)していない	31.1%	23.5%	21.7%	14.2%
知らないし 実践(意識)していない	4.9%	12.9%	5.3%	18.5%

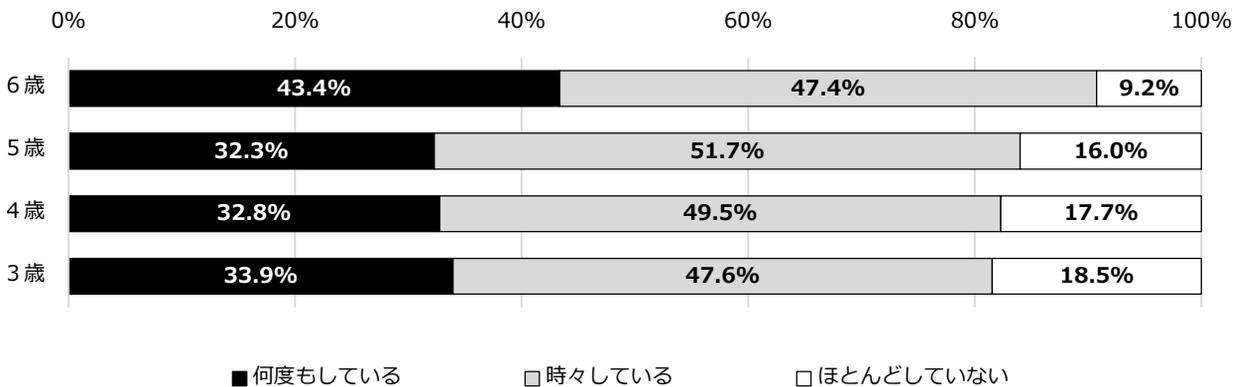
3 お子さんの体験活動について

3-1-1 お子さんは自然体験活動（水遊び、虫捕り、キャンプ、ハイキングなど）をどの位していますか。

※ お子さんが3歳児以上の方のみ回答



(年齢別内訳)

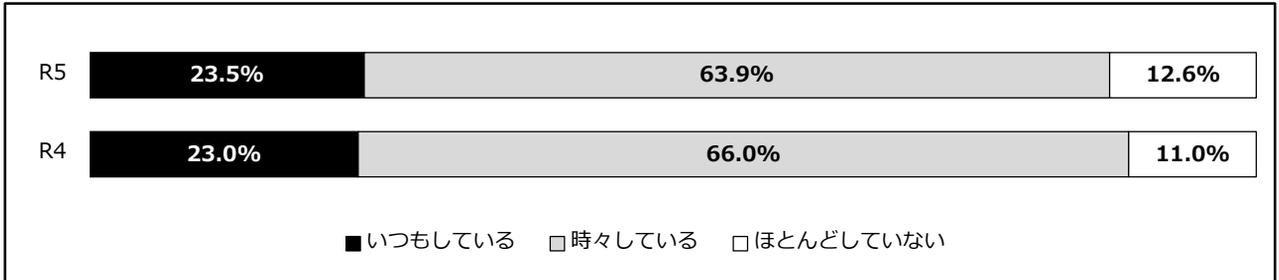


【概要・考察等】

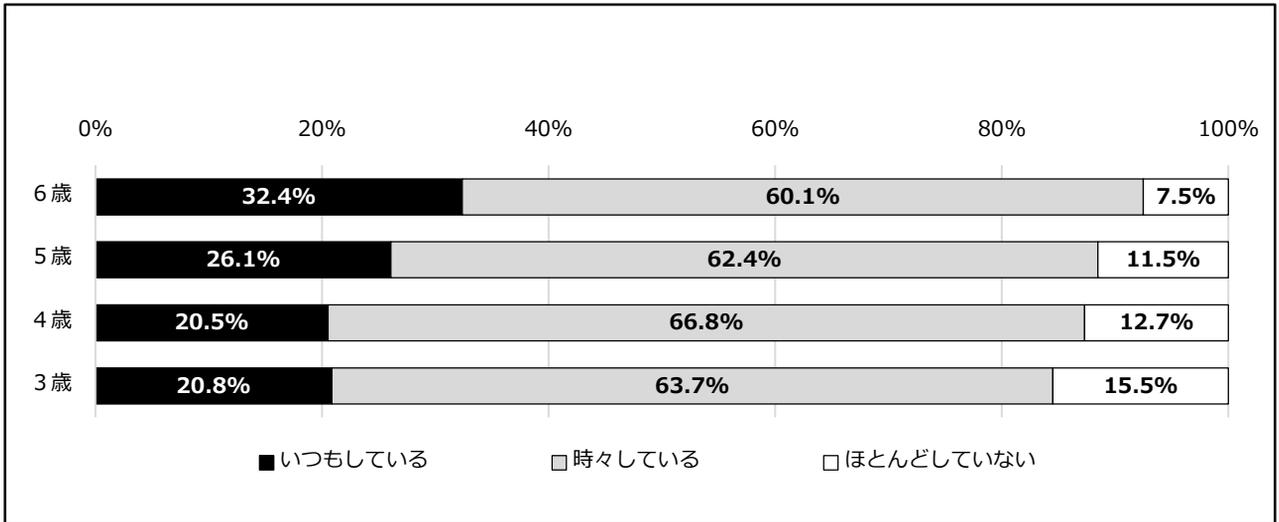
- 自然体験活動を「何度もしている」「時々している」と回答した割合は、昨年度より6.7ポイント増加した。
- 設問の後に「身近な環境の中にも自然体験活動があること」を説明したことにより、昨年度よりも身近な環境での自然体験活動を認識したことも考えられる。
- 年齢別では、年齢が上がるにつれて、「何度もしている」「時々している」と回答する割合が高くなる傾向が見られる。

3-1-2 お子さんは家事・手伝い（食事の配膳・片付けや掃除、洗濯物をたたむなど）をどの位していますか。

※ お子さんが3歳児以上の方のみ回答



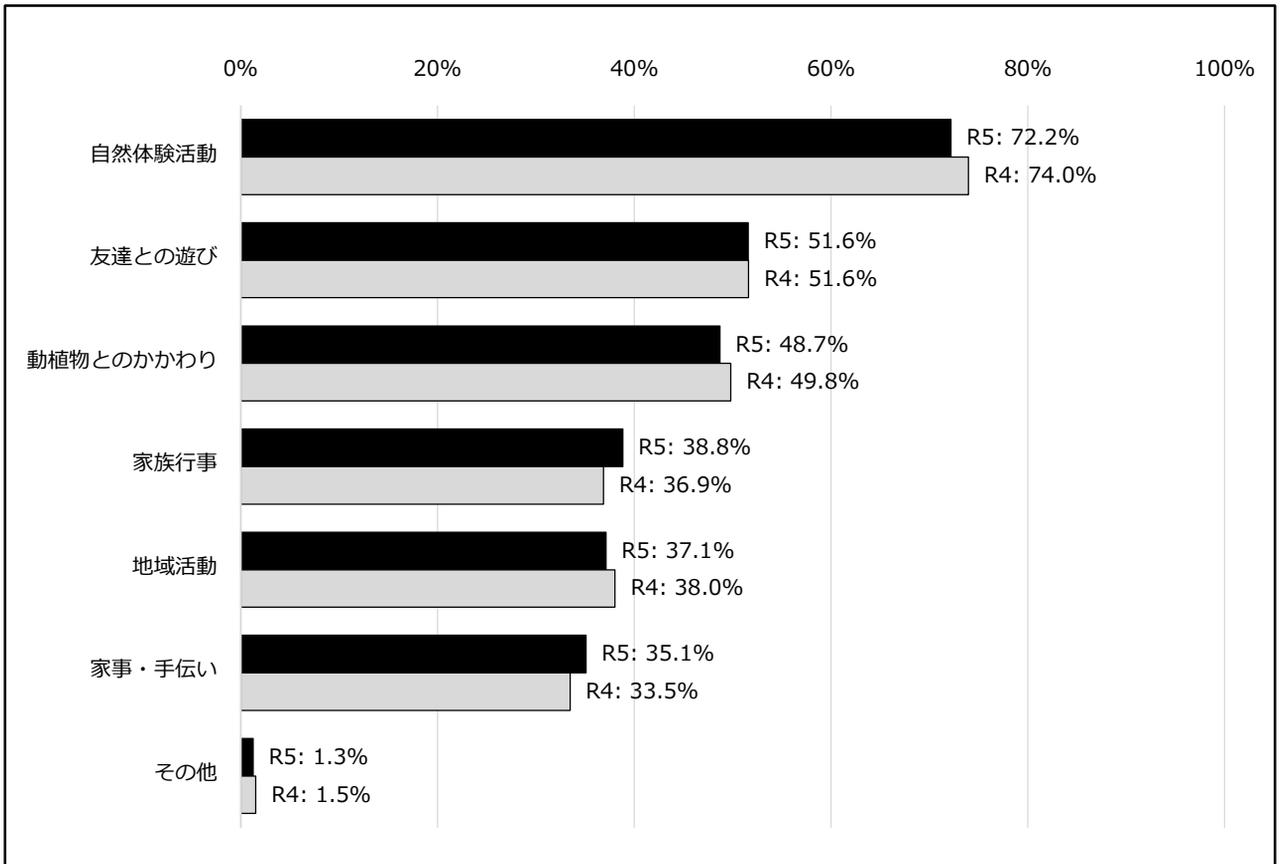
(年齢別内訳)



【概要・考察等】

- 家事・手伝いを「いつもしている」「時々している」と回答した割合は87.4%で、昨年度とほぼ同じ割合である。
- 年齢別では、年齢が上がるにつれて、「いつもしている」と回答する割合が高くなっており、6歳では90%以上が何らかの手伝いをしている。年齢が上がるにつれてできることも増え、子供が家族の一員としての存在であることを認識し、家庭での役割を積極的に果たすことができるようになってきていることがうかがえる。

3-2-1 家庭や地域でお子さんに体験させたい活動をお答えください。（該当するもの3つ選択）



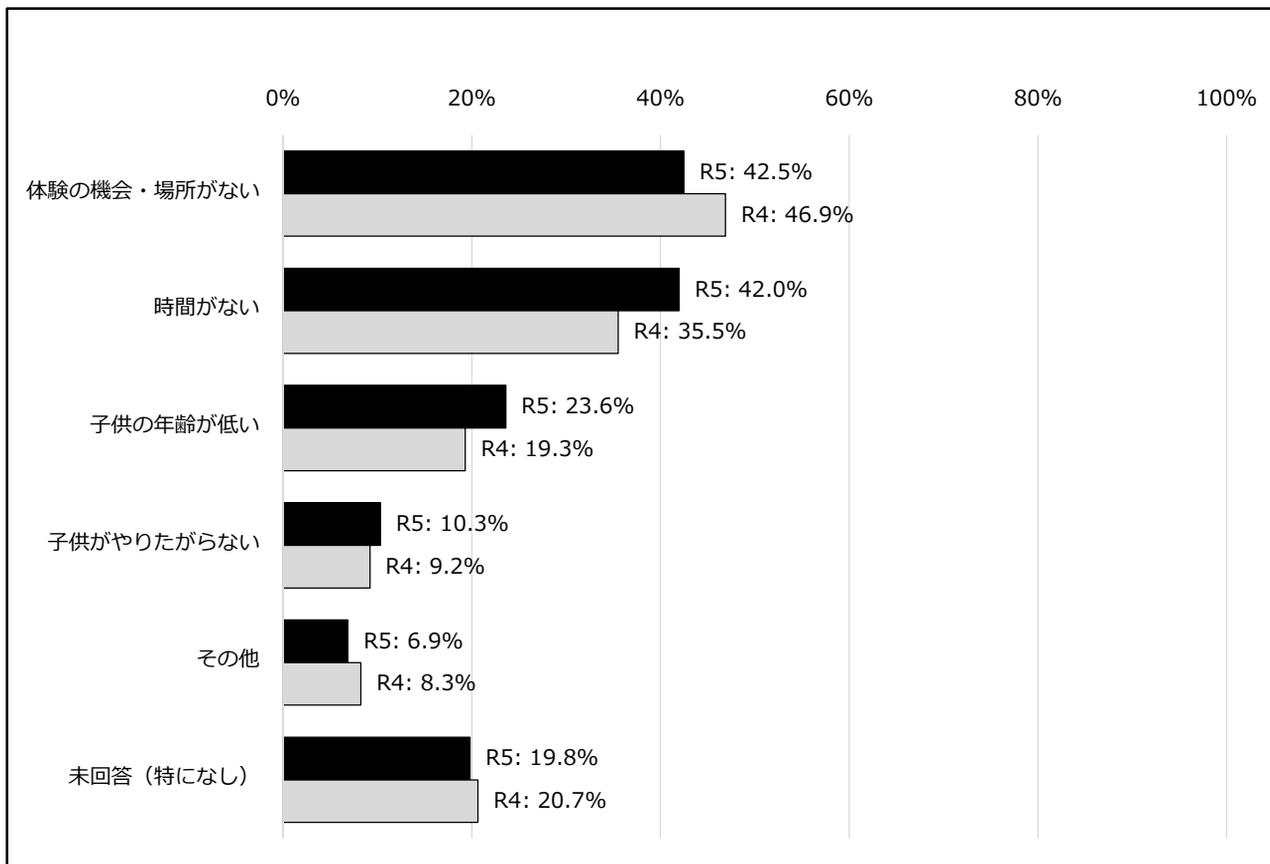
【その他の主な内容】

芸術、スポーツ、世代間交流、異文化交流

【概要・考察等】

○ 昨年度と同様、「自然体験活動」「友達との遊び」「動植物とのかかわり」の順に回答した割合が高く、それぞれの割合も昨年度とほぼ同程度であった。

3-2-2 「3-2-1」の「お子さんに体験させたい活動」について、お子さんに体験させることが難しいと感じることがありましたら、その理由をお答えください。（該当するもの全て選択）



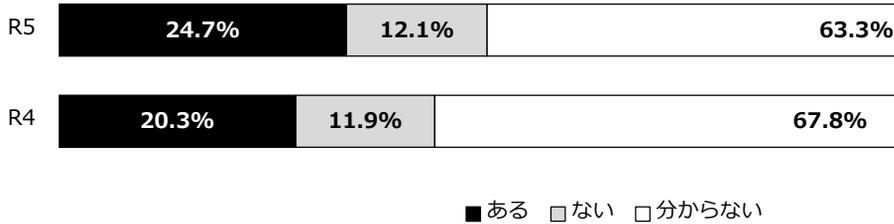
【その他の主な内容】

- 新型コロナウイルス感染症拡大が不安なため
- 下の子が小さいため
- 金銭面での不安があるため
- 保護者自身に体験活動の経験がないため
- 仕事で疲れているため
- ワンオペのため

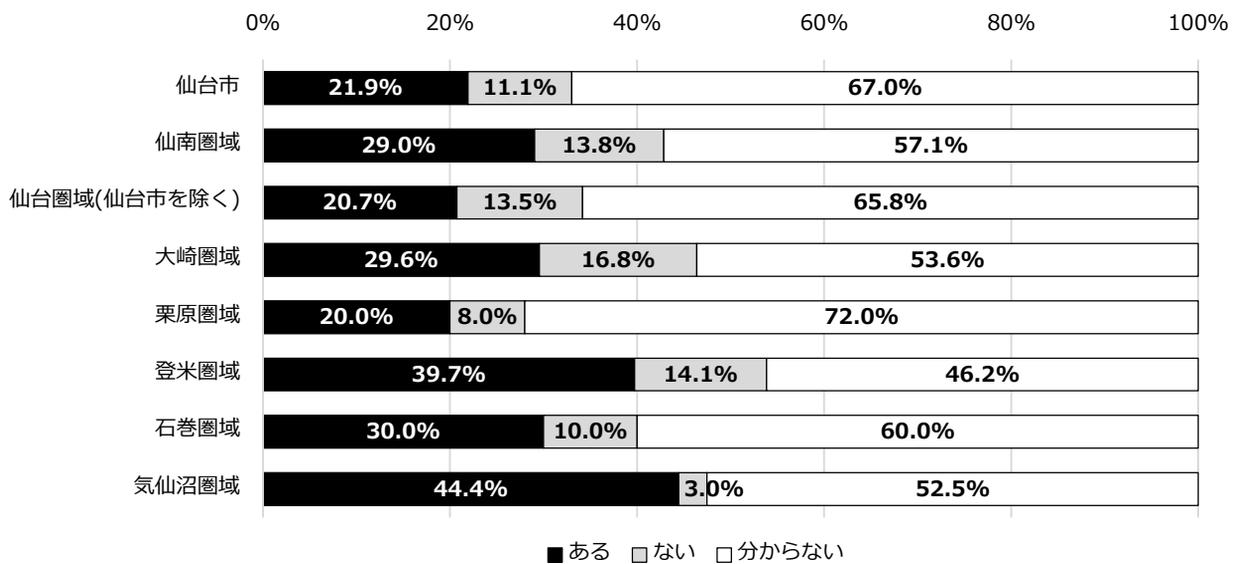
【概要・考察等】

- 昨年度と同様、「体験の機会・場所がない」「時間がない」「子供の年齢が低い」の順に回答した割合が高かった。
- 「体験の機会・場所がない」が4.4ポイント減少しているが、「時間がない」は6.5ポイント増加している。また、「その他」の記述で「ワンオペ」「親がいっぱいいっぱい」などがあり、体験活動をさせることに対する親の負担感がうかがえた。
- 引き続き、地域の公園・児童館等の公共施設やコミュニティー等にも目を向け、できる範囲で戸外に出掛けることも大切な体験活動であることについての理解を促進していく必要がある。

3-3 あなたがお住まいの地域では、自然体験活動などについて参加できるイベントや催しなどがありますか。



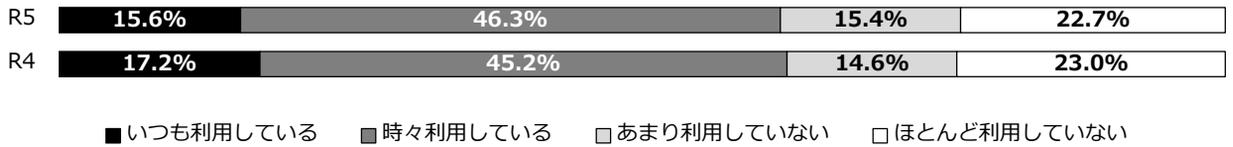
(圏域別内訳)



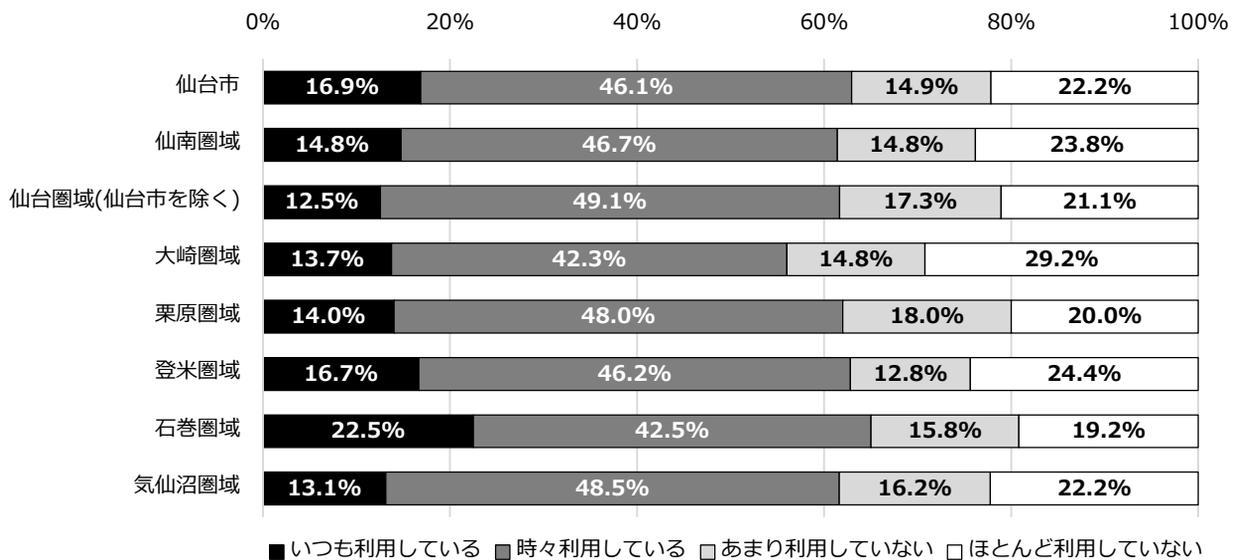
【概要・考察等】

- 居住する地域において、参加できるイベントや催しが「ある」と回答した割合は、昨年度より4.4ポイント増加した。
- 圏域別では、すべての圏域で「ある」と回答した割合は昨年度より増加しており、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、自然体験活動のイベントや催しが昨年度より増加したと考えられる。
- 「分からない」と回答した割合が6割を超え、依然として高い割合であることから、イベントや催しの周知方法に工夫が必要である。

3-4 遊び場として、公園や公民館、児童館などのコミュニティ施設を利用していますか。



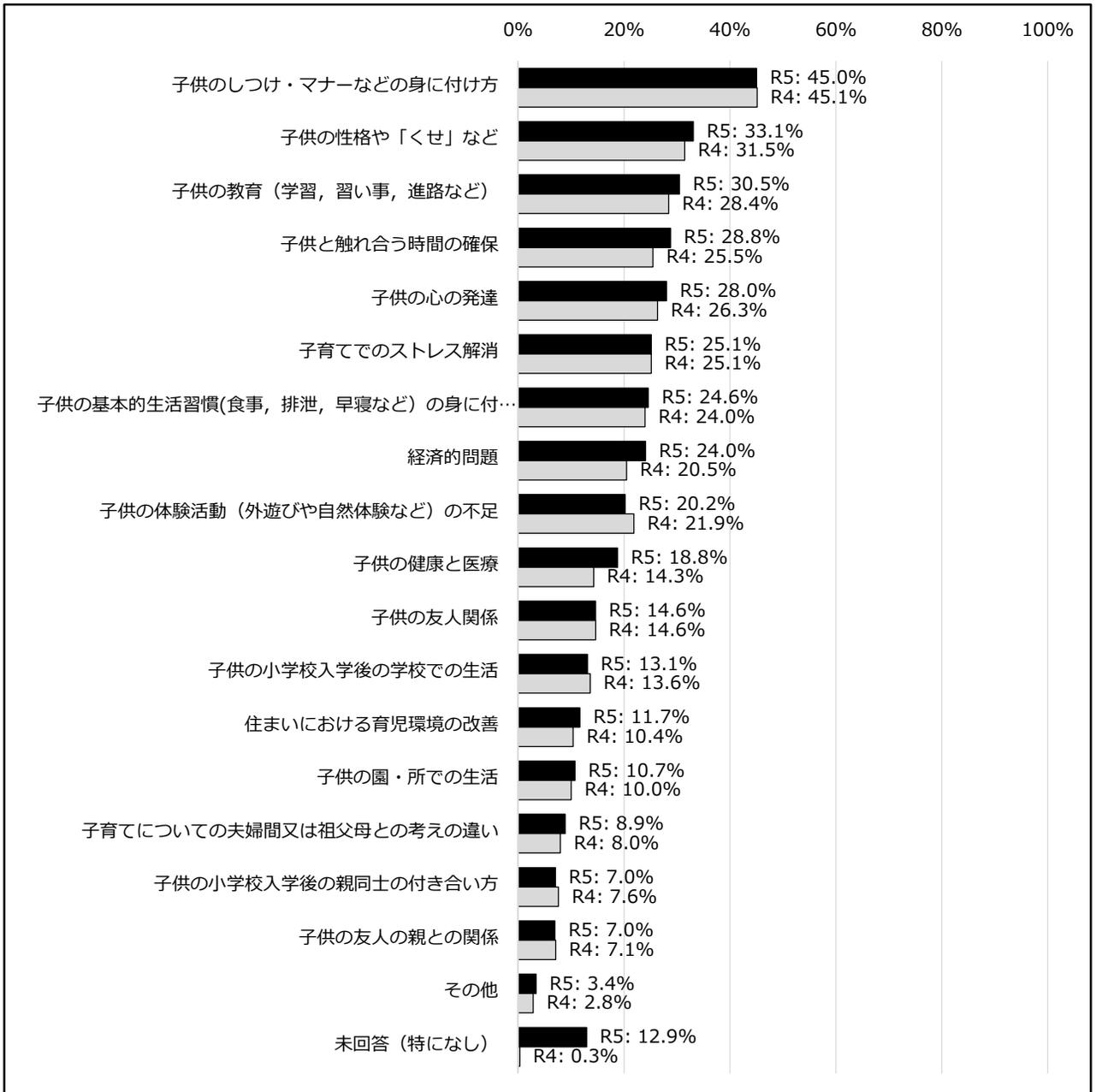
(圏域別内訳)



【概要・考察等】

- 遊び場としてコミュニティ施設を「いつも利用している」「時々利用している」と回答した割合は、0.5ポイント減で昨年度とほぼ同じ割合であった。
- 圏域別では、全ての圏域で「いつも利用している」「時々利用している」と回答した割合は60%程度で、圏域による大きな偏りは見られなかった。
- 「その他」で、「遊べる公園が近くにない」「土日は大きな公園が混んでいて使いにくい」などの記述があった。
- 遊び場としてコミュニティ施設を活用する方法について情報提供していくなど、活用をより一層促進していく必要がある。

4 幼児教育の環境について



【その他の主な内容】

子供の遊び場の減少、兄弟・姉妹の関係性、父親・母親の子育てへのかかわり方、仕事と子育ての両立

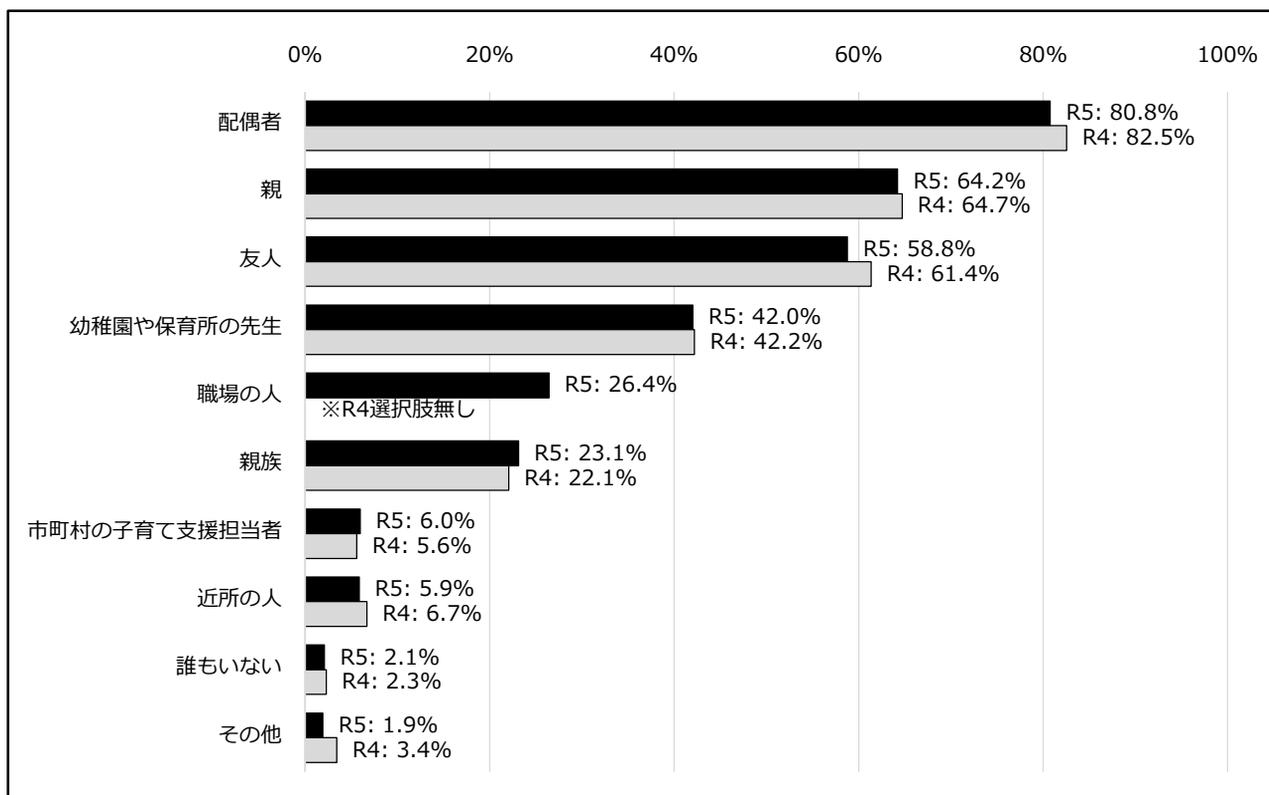
(今年度の年齢別上位項目)

年齢 順位	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳
1 位	触れ合う時間	しつけ・マナー	しつけ・マナー	しつけ・マナー	しつけ・マナー	しつけ・マナー	しつけ・マナー
2 位	健康と医療	触れ合う時間	基本的生活習慣	性格・くせ	性格・くせ	性格・くせ	子供の教育
3 位	経済的問題	健康と医療	触れ合う時間	基本的生活習慣	子供の教育	子供の教育	性格・くせ
4 位	しつけ・マナー	経済的問題	経済的問題 ストレス解消	子供の教育	心の発達	心の発達	触れ合う時間
5 位	ストレス解消	基本的生活習慣		触れ合う時間	ストレス解消	触れ合う時間	心の発達

【概要・考察等】

- 昨年度と同様、「子供のしつけ・マナーなどの身に付け方」「子供の性格や『くせ』など」「子供の教育（学習、習い事、進路など）」の順で回答した割合が高かった。
- 年齢別で見ると、0・1歳児では、「触れ合う時間」と回答した割合が高く、1～6歳児では、「しつけ・マナー」と回答した割合が最も高かった。3～5歳児では、「性格・くせ」と回答した割合が2番目に高かった。
- 「子供の教育」との回答は、3歳児から多くなり、年齢が上がるごとに増加する傾向が見られた。
- 全項目で回答があり、子育ての悩みが多岐にわたっていることがうかがえる。
- 「その他」では、「仕事と子育ての両立」に関する記述の他、「子供の成長・発達」「子育ての環境」「社会の理解」に関する記述が見られた。

4-2-1 子育ての悩みについて誰に相談していますか。（該当するもの全て選択）



【その他の主な内容】

SNS上の知人、医療関係者、園・所の保護者

4-2-2 「4-2-1」で「誰もいない」を選択した方は、どのような相談先があれば利用しやすいですか。

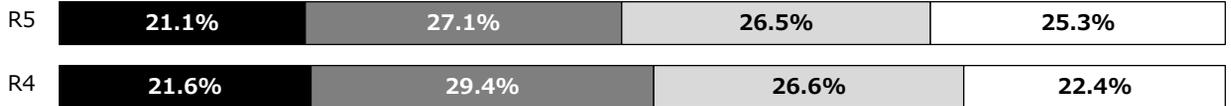
【主な内容】

- Chat・LINE・メールのような文字で気軽にやりとりできる環境
- 同年代の保護者とゆっくり話せ、仲良くなれる機会

【概要・考察等】

- 子育ての悩みについて相談する人がいると回答した割合は、昨年度とほぼ同程度で、97.9ポイントだった。
- 昨年度と同様、「配偶者」「親」「友人」の順に回答した割合が高く、身近な人に相談する傾向があることがうかがわれる。
- 相談する人がいる割合は97.9%で、悩みがある場合に誰かしらに相談ができている状況だが、「誰もいない」と回答した2.1%の保護者については、悩みを抱えたままの子育てにより、精神的な疾患や虐待等に発展する事案もあることから、引き続き子育ての悩みを相談できるような場の周知について、工夫していくことが必要である。

4-3 お子さんの行動（落ち着きがない、パニックを起こしやすいなど）が気になるときの相談先を知っていますか。

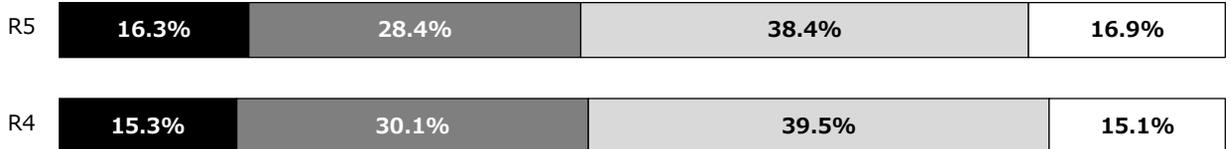


■ 知っている ■ だいたい知っている □ あまり知らない □ 知らない

【概要・考察等】

- 子供の行動が気になるときにどこに相談すればよいか「知っている」「だいたい知っている」と回答した割合は、昨年度より2.8ポイント減の48.2%であった。
- 「知っている」「だいたい知っている」と回答した割合は、大幅な増加はなく、ほぼ半数であるため、保護者の目線に立った相談窓口や情報提供の在り方を整理していく必要がある。

4-4 発達障害（ADHD、LD、自閉症など）の特性や発達障害がある方への接し方などについて知っていますか。



■ 知っている ■ だいたい知っている □ あまり知らない □ 知らない

【概要・考察等】

- 発達障害の特性や発達障害がある方への接し方などを「知っている」「だいたい知っている」と回答した割合は、昨年度より0.7ポイント減でほぼ同じ割合であった。
- 発達障害への適切な理解を促進していくため、引き続き発達障害に関する情報や学ぶ機会を提供していく必要がある。